

2016年度（平成28年度）研究推進計画

学校教育目標	「心身豊かに学び合う子どもの育成 つよく ゆたかに のびゆく子 ～かしこく やさしく たくましく～」
めざす児童像	姿勢良く話を聴き、考えを短文で表現できる子 学習・生活習慣が身につく、自分と他者を愛する子 外で元気に安全に遊び、自分の生活を改善する子
研究テーマ	「伝え合い ひびき合う学びをめざして ～子どものコミュニケーション力を育てるには、 教師の授業力アップが必至！～」
育成する力	コミュニケーション力 ○聴く力 ○話す力 ○話すための書く力
授業研究でめざす児童の姿	☆内容を関連づける連続性のある伝え合いをもとに、自分の考えを深めたり広げたりする ○聴く・友達の言いたいことを分かろうとして聴く ・自分の考えと比べながら聴く ○話す・自分の考えを持ち、相手に分かりやすく話す ・友達の意見に対して、自分の考えを話す ○話すための書く力 ・自分の考えが明確になるように、文章の組み立てを考える ・目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすく書く

I. 学校教育目標、めざす児童像について

学校長からの提案どおり

II. 研究テーマについて

【昨年度の研究をふり返って】

1) 2015年度研究推進計画

テーマ	「伝え合い ひびき合う学びをめざして」
サブテーマ	コミュニケーション力を育てる手だて
めざす児童の姿	☆内容を関連づける連続性のある伝え合いをもとに、自分の考えを深めたり広げたりする ○聴く・友達の言いたいことを分かろうとして聴く ・自分の考えと比べながら聴く ○話す・自分の考えを持ち、相手に分かりやすく話す ・友達の意見に対して、自分の考えを話す

○話すための書く力

- ・自分の考えが明確になるように、文章の組み立てを考える
- ・目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすく書く

単元づくりのチェックポイント

- ① 児童が学習の見通しを持てる工夫をしているか
- ② 各時間の学習のめあてが児童に分かるように示され、共有できているか
- ③ 交流の場（ペア、グループ、全体など）が設定、工夫されているか
- ④ めあてにあえるふり返りの時間が設定されているか

コミュニケーション力育成のチェックポイント

- ① 声づくりはできているか
- ② 相手意識を持たせた聴き方、話し方、書き方をさせているか
- ③ 一人一人が考えを持つ場を設定しているか
- ④ 自分の考えを目に見える形にしているか
- ⑤ 理由（根拠）を話させているか

（参考文献）「明日からできる活用力育成 言葉を鍛えて学力向上」阿部秀高・著

2) 成果

○単元づくりのチェックポイントとして、①学習の見通しを持てる工夫②めあての提示、共有化③交流の場の設定と工夫④学習のゴールの設定などを心がけて、授業づくりがされていた。

○ミニ講座がよかった。

○一人一授業は有効。

3) 問題

△授業の形式化を進めるだけでは、授業でうまくいかないところが出てくる。

△「めあて—主活動—学習ゴール—つきたい力」のつながりを考えた組み立て方。

△話し合いの課題の適切さ。

△ふり返りの時間については、1時間内に入れることが難しかった。

△ふり返りの意義や設定の仕方。

△教師個々の授業力の高め方。

△ミニ講座の時期と回数。

4) 改善策

1 ☆授業力アップのために一人一授業公開で教師個々の授業づくりでの課題を明確化する。

→授業研究方法の工夫

2 ☆単元設定のとらえ方考え方について共通理解を図る。

→どのように単元設計をしていけばよいのかについての共通理解

3 ☆ふり返りの意義や設定の仕方を提示する。

4 ☆ミニ講座の時期と回数を検討する。

【今年度の研究テーマ】

研究テーマは冒頭に提示。「単元設計の共通理解」と「個々の授業力アップ」をキーワードとして、授業研究の方法を工夫していく。

Ⅲ. 研究内容

1 ☆→授業力アップのために、一人一授業公開で教師個々の授業づくりでの課題を明確化する

【方法】各学期 2 学年一人一授業 その中で1クラスが校内授業研究

- ① 3校時～4校時 2学年が一人一授業公開
- ② 昼休み 1学年が阿部先生によるアドバイスを受ける
- ③ 5校時 2学年のうちの1クラスが校内授業
- ④ 放課後 事後研究会 全体会→分科会→全体会
事後研究会後 残り1学年が阿部先生によるアドバイスを受ける

1 学期 6月5日(水) 5年生、6年生、理科専科

2 学期 10月26日(水) 1年生、2年生

3 学期 2月3日(金) 3年生、4年生

*専科、プレイ室の一人一授業については、2015年度と同様の形で行う。

*校内授業研究については、2015年度と同様の形で行う。

- ・研究教科は国語科とし、コミュニケーション力「○聴く力○話す力○話すための書く力」の基礎基本を育成する手だてをさらに研究する。学年で教材研究し、その単元計画の中で一人一授業公開を実施する。

2 ☆→「単元設定のとらえ方、考え方」について共通理解を図る

【方法】1) 研究全体研修会で共通理解を図る

単元目標(めあて)設定【目的】①

- ・単元の工夫(ゴールを目指すことに意欲を持たせる)③
- ・学習計画を立てる(見通しを持たせる)④

1時の活動・目標(めあて)

2時の活動・目標(めあて)

3時

↓
4時

学習のゴール(言語活動)を決める【手段】②

○単元設定は①～④の順で考えていく。

○①～④のつじつまが揃っているかが重要。

単元づくりのチェックポイント(2016年度)

- ゴールを達成できたら単元目標が達成できるという「単元設定」になっている
例) ゴールを「リーフレットづくり」とした場合、単元目標によってリーフレットの内容が変わってくる。
- 各時間の活動が、常にゴールを目指した内容になっている
例) ゴールを「図鑑づくり」とした場合、各自の活動が図鑑づくりにつながるもの・

目指すものになっている。

□ 単元目標とゴールから考えて、教材文を吟味している

例) ① 6年の「新聞記事から意見文を書く」実践

4つの記事を扱う→・その中で2つの記事を扱う

・賛成意見の記事だけ扱う

② 3年の「説明文づくり」の実践

教材文からモデル文へ→・モデル文で書く内容や順番を知る

・モデル文だけから説明文を書く

③ 1年の「図鑑づくり」の実践

→・ライオンとしまの文だけを扱う

・カンガルーの文を別の動物の文に差し替える

*以上3点に心がけて単元設定をしていくことが、

○「めあての質的向上」「(ゴールに迫るための) 価値ある発言の引き出し」につながるのではないか。

○話し合う課題もよいものになるのではないか。

○研究反省アンケートで出される授業づくりに関する意見にも対応できるのではないか。

*ただし、方法論では解決しない。形式化できない。なぜなら、単元目標、扱う教材、子どもの実態、学年によって変わるからである。子どもの側にたった教材・指導研究が必要になる。

2) 夏季研修の設定

○<必須課題>

2学期か3学期の国語(専科担当は担当教科)の単元の中から一つを選び、個人で単元構想案とその単元で核となる伝え合う場にあたる本時展開を作成する。(一人一授業の単元は除く)

○<選択課題>

必須課題で作成した単元の流れの説明とその模擬授業を行う。その授業について、講師の先生からツッコミを入れてもらう。8月23日午後予定。

*単元構想案と本時展開の書き方については、1学期末に提案する。

*選択課題の希望については1学期に調査する。希望した全員が実施する。希望がなければ実施しない。

*選択課題を希望した先生が他の研修会と重なった場合、本研修会を優先するよう管理職の先生には配慮をお願いしたい。

*講師は今宮先生(プール学院大学准教授)に依頼する。

3 ☆→「ふり返り」の意義や設定の仕方を提示する

【方法】研究全体研修会で共通理解を図る

1) ふり返りの意義とは

①子ども自身が

- 授業を通して学びが深まったことを実感できる。
- めあての達成度を確認できる。
- ゴールへの学びの過程を確認できる。

②教師自身が

- 子どもたちの学力がめあてに向かって向上しているかを確認できる。
- ふり返りに書かれた学び違いや疑問を、次時のはじめに提示し解決することができる。
- 子どもたちに確かな思考力や表現力を定着させることができる。

2) ふり返りの設定の仕方

①一時間の授業の中で

- めあてにつながる発言を評価・価値づけする
- ふり返りを書く時間を設定する
 - 「今日のめあてが達成できたかどうかについてふり返りを書きましょう。
なぜ達成できたか、理由も書きましょう。」
- ふり返りの型を示す
 - 例) ・めあてが達成できたかどうかについて書く。
 - ・達成できた内容(考え)について詳しく書く。
『～が分かった。』『～ができるようになった。』
 - ・達成できた理由や根拠を書く。
『教科書の～という部分から……ということが分かった。』
『○○さんの考えを聴いて、自分の考えが……に変わった。』

②单元の中で

- 单元を通して分かったことや考えたことを「めあてのまとめ」としてノート1ページにまとめる。
- 单元のめあてに返るレポートを作成する。
- ③ふり返りがしやすいように
 - 学びの流れが分かりやすい板書をする
 - これまでの学習の過程が分かる掲示をする

4 ☆→ミニ講座の時期と回数を検討する

*時期と回数については別紙で提案。

- ・若い教師のための研修会を企画、開催する。
- ・30分間の自由参加形式。
- ・ミニ講座で使われた資料は、Zドライブ→100校務分掌→101研究推進→2016ミニ講座→資料のフォルダで保存する。

5 ☆→学級づくり研修会を実施する

- ・支持的風土のある学級づくりの方法を探る。提案は、人権同和担当とする。